

桑名市ブランド推進ビジョン

■これまでの取り組み

①ロゴマーク (2015年～)

桑名城、桑名の千羽鶴、桑名の蛤、市が持つ海、山、川などの豊かな自然の融合をイニシャルである桑名市の「K」のマークにまとめたデザイン。



②桑名ほんぱく (2015年～)

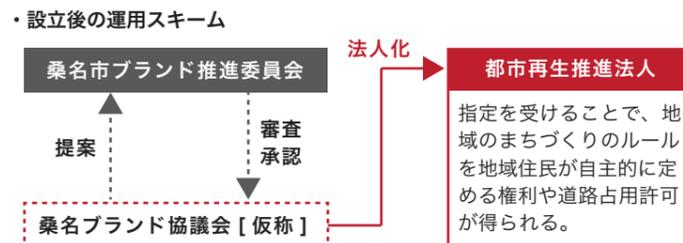
2015年度にプレ開催し、2016年度から本格開催されている桑名ほんぱく。女性を中心とした多くの方がイベントに参加している。



■今年度の取り組み

①ブランド推進協議会 [仮称] の設立

桑名ほんぱくの運営など、桑名市が主体となっている状態から、民間主体へ移行することで、実行に移しやすい体制を目指す。具体的には、地元事業者や地権者などから構成される「協議会」を設立し、まちづくりに関する事業計画の策定や事業の実施、実施に向けた協議などを行う。



②統一されたデザインコードの展開

ロゴマークやテーマカラーの要素から統一のデザインコードを設定し、ハード整備やイベント装飾などに展開することで、街が一体となりブランディングとして可視化される。



③水辺社会実験による拠点づくり

桑名には木曾三川沿いの堤防や国営の七里の渡し公園など、魅力的な水辺空間がある。ロゴマークやテーマカラーの要素をデザインとして取り込み、桑名の新たな発信力として水辺を活用していくための旗揚げをおこなう。また、桑名ほんぱくの拠点としても機能させる。



■ブランド推進へのプロセス

		2018	2019	2020	2021
桑名市	イベント	●桑名医療センター開業		●桑名駅自由通路開通 ●東京オリンピック	●桑名駅再開発 ●三重国体
	運営の拡充	●桑名ブランド協議会 [仮称] の設立		●駅開発などデザインコードの展開	●桑名ブランド会社 [仮称] の設立 ●既存施設の集約 ●シェアサイクルの実装
	桑名ほんぱく	●桑名ほんぱく エントリー料徴収開始 ●水辺社会実験と連携			●民間主体体制
	水辺社会実験	●水辺社会実験 開始予定	●九華公園まで エリア拡大	●寺町通り商店街 などと連携	●駅前広場まで エリア拡大 ●民間主体体制

■段階的に成長する計画づくり

step1 期間：2018
 ・水辺の魅力に気づくキッカケづくり
 ・社会実験として旗揚げ
 ↓
 地域資源活用の始まりとして設定し、拡大の起点としていく

step2 期間：2019-2020
 ・本物を体感できる場づくり
 ・商店街・公園との連携、規模拡大と定着
 ↓
 水辺沿いにエリアを広げ、寺町通り商店街も活用していく

step3 期間：2021-
 ・広域での連携・シェアサイクルの整備
 ・駐車場整備による自動車の来訪促進
 ・博物館等の既存施設の集約による活用
 ↓
 駅前広場まで拡大し、街全体を活用していく



統一されたデザインコード＝「折衷」の展開

時代を横断した建築物が残る「七里の渡し」エリア

江戸：桑名城城壁 明治・大正：六華苑 昭和：寺町通り商店街

桑名を象徴する本物

桑名の“本物”を象徴する建築物 街並み＝「本物を際立たせる舞台装置」

六華苑のような桑名市内に存在する歴史ある“本物”を際立たせるように街全体を演出する

ジョサイア・コンドルの建築思想

和洋の要素を取り入れた建築

和「木材」を多用した内装デザイン 洋「石材」を多用した外装デザイン

時代の折衷

建築物と街並みの折衷

素材の折衷

桑名の歴史と未来をつなぐ折衷のデザイン

■デザインコード

時代の折衷

江戸時代 本多忠勝の兜 明治・大正時代 ジョサイアコンドルの建築

DIC N-780 薄香色 (うすこういろ) 20%	DIC N-786 亜麻色 (flax) 20%
DIC N-763 椴皮色 (ひわだいろ) 30%	DIC N-754 栗梅色 (burnt sienna) 30%

黒色

素材の折衷

木彫と石調の融合

屋内外のにぎわいの折衷

セットフロントの開口部

○ 屋内の賑わいを街路空間へしみ出す

テラス席など 歩道側：ガラス張り

× 屋内の賑わいが遠い

■展開例

七里の渡しエリア

賑わいや街並みの背景となる本多忠勝の兜を連想させる「黒色」の外壁材

開口部の一部分は木調ルーバーでプライバシーを確保

既存家屋など

セットフロントさせた開口部

コンドル建築の色調を連想させる石調の外壁

桑名駅周辺エリア

賑わいや街並みの背景となる本多忠勝の兜を連想させる「黒色」の外壁材

カーテンウォール内側はファサード同等とみなし街並みと統一させる

《カーテンウォールの建物》

既存家屋など

セットフロントさせた開口部

コンドル建築の色調を連想させる石調の外壁